

皆さん、現代社会学部へのご入学、おめでとうございます。

本来ならば、桜の花が咲く京都東山の京女のキャンパスで、皆さんと対面しながらご入学のお祝いを伝えることができるはずでした。新型コロナ・ウイルスの蔓延という未曾有の事態だとはいうものの、それがかなわず、とても残念に思っています。現代社会学部のすべての教職員が、現状を憂い、皆さんのおかれている状況を気にかけています。皆さん、元気にしているでしょうか？

4月の半ばを過ぎたキャンパスでは、桜にかわってツツジの花が咲き始めています。新型コロナ・ウイルスの蔓延などまるで関係ないかのように、自然は、いつもと同じ営みを続けています。ひるがえって人間の社会はどうでしょうか。百年に一度ともいわれるこの災厄に直面して、現代社会は大きく傷ついています。どうしてそんなに弱いのでしょうか。その社会のなかでたくさんの人々が傷ついています。でも、皆が平等に傷ついているわけではありません。国により、地域により、国籍により、職業により、年齢により、性別により・・・、人々の傷つき方は大きく異なっています。なぜなのでしょう。

皆さんが入学された現代社会学部は、社会の様々な側面について、多様な知識と知恵、そして技術を身につけながら考えていこうとする学部です。コロナ前の社会を作ってきたのが私達教職員の世代だとすれば、コロナ後の社会をより良いものへと作り変える主役は、皆さんの世代です。

私達すべての教員は、これまでの社会、これからの社会について、皆さんと一緒に悩みつつ、より深く考えていきたいと思っています。それだからこそ、なおのこと、皆さんと対面で学び合うことができる日が1日でも早く訪れることを、願っています。それまで皆さん、気をつけて過ごしてください。

近いうちに必ず、キャンパスでお会いしましょう！

現代社会学科主任 松田 哲